

2020年3月期決算電話会議議事録

参考資料:2020年3月期決算説明資料

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード(High Density Interconnect)

【機能材料セグメント】

- Q. 機能材料セグメントの主要製品の動向について、市場環境の動きがどう20年度業績予想に結び付いているのかご解説ください。触媒の解説時にはパラジウムの動きについても教えてください。
- A. 19年度から20年度への市場動向について、機能材料セグメントでは、銅箔や銅粉、ITOターゲット材などの電子材料系はCOVID-19の影響は今のところ見えておらず、20年度の販売数量は増加もしくは横ばいで推移すると見ている。
- 一方、触媒やMH合金などの車載向けは19年度末から20年度にかけてCOVID-19の影響を受ける見込み。
- パラジウムおよびロジウムなど貴金属価格について、Q3からQ4にかけて上昇したが、2月から3月にかけて価格は下落している。またQ3で貴金属価格上昇による一過性利益の約10億円が発生したが、Q4でもほぼ同額発生した。
- Q. 機能材料セグメントでQ4は営業外で為替差損が出ていると思うが、在庫要因除き営業利益では前回見込とほぼ変わらないという認識でよいのか教えてください。
- A. 対前回見込比較では、在庫要因除き営業利益ではほぼ変わらないという認識で合っている。また為替差損が出ているのは触媒であり、日本でインド工場向けに販売している貴金属の売掛債権評価損が発生し、10億円以上出てしまっている。
- Q. 機能材料セグメントでは、前回見込でQ4の貴金属価格の影響を見ていなかったのが今回決算で上振れていると思うが、営業利益について、機能材料セグメントの各製品の動きについて教えてください。
- A. 機能材料セグメントについても、各製品の利益の増減変化は銅箔が少し減少しているくらいで、他の製品はほぼ横ばい。触媒は貴金属価格の影響は入っているが、販売面でCOVID-19の影響による中国向け減少、およびベトナム向け減少などがあり、結果的に横ばい。
- Q. 銅箔マーケットの大きな流れやHDI向けMicroThin™の新規採用などについて教えてください。
- A. 19年度から20年度にかけて、一般箔の通信インフラ向けはかなり増加すると見ており、PKG向けMicroThin™も非スマホ向け、スマホ向けともに増加すると見ている。しかしながら、HDI向けMicroThin™は低迷しており、20年度も販売量を押し上げるような良い話は聞こえてこない。
- Q. Q3決算時に、2020年モデルの北米スマホの基板が変わるので25-30%増えるかもしれない、という話があったが、それはどうなったのか、また今回の見込にどのように織り込んでいるのか教えてください。
- A. 基板が大きくなる話は、今もその方向で動いていると聞いているが、MicroThin™販売量が如何ほど増えるのか詳細は不明。(基板サイズ変更により)20年度は10%程度の増加を織り込んではいないが、HDI向けMicroThin™はスマホ販売台数に直結するため、足元の状況を踏まえると20年度のスマホ販売台数の伸びは期待できないことから、20年度のHDI向けMicroThin™は前年度比で横ばいと見ている。

- Q. (決算説明資料P13) 二輪触媒、四輪触媒の販売量について、20年度下期に急激に回復するようになっているが、何か回復するような話があるのか教えてください。
- A. 現時点で下期はどうかかわからないので20年度当初計画の下期数値を置いている。

【金属セグメント】

- Q. (決算説明資料P23) COVID-19影響のうち、金属で▲119億円みているが、金属価格の下落とワンサラ鉱山、カセロネス銅鉱山の操業停止に分けるとどうなるか教えてください。
- A. ▲90億円が相場・為替影響、▲30億円が鉱山操業停止その他の影響と見ている。
- Q. 今期カセロネス銅鉱山の損益前提およびワンサラ鉱山がどれくらい悪くなるのか、19年実績と20年上期・下期の数字について教えてください。
- A. カセロネスは19年実績▲27億円、20年上期▲42億円、20年下期▲23億円、20年計▲65億円。よって▲38億円の悪化。
ワンサラ鉱山含む資源事業部について、19年10億円の黒字、20年上期▲25-30億円の赤字、20年度年間▲30億円超の赤字。

【自動車部品セグメント】

- Q. 20年度業績予想の自動車部品について、中国とそれ以外の地域で(市況の)戻り方が違うと思うが、どのような前提で織り込んでいるのか、中国とそれ以外の地域それぞれ教えてください。
- A. 中国については既にCOVID-19の影響は解消しつつあり、Q1からQ2にかけて回復基調で見えており、早く元に戻っていきたくらうと見ている。それ以外の北米や欧州については、Q1はかなりの落込みであり、Q2から回復するという前提を置いている。つまり、中国とそれ以外の地域で異なった見方をしており、Q1では北米、欧州の方が落ち込みが大きいことになる。

【全体】

- Q. (決算説明資料P18) 19年度から20年度にかけて設備投資が340億円から360億円、減価償却が290億円から370億円に増えているが、増加要因をご説明ください。
- A. 設備投資はセグメント別で金属が37億円増えており、20年度から子会社化した日比共同製錬関係で増えている。八戸製錬の大定修もあるが、他で圧縮してカバーしている。減価償却費について、80億円増加のうち日比共同製錬で57-58億円を占めている。
- Q. 今年度の配当計画は未定とされているが、配当方針DOE2.5%は変わらないという理解で宜しいでしょうか。
- A. 2020年度の業績予想はあくまで仮定に基づく推定の域を脱していないものであり、基本方針としてDOE2.5%は変わらないが、業績がどのように振れるのか不透明であることから、現時点では未定とさせていただいた。
- Q. (決算説明資料P23) COVID-19影響について、対策として70億円入っているが、どのようなことに取り組みされるのか内容を確認させてください。また、今後も効果が残るような対策なのか、もしくは人件費の絞り込みのような一過性の対策なのか解説してください。
- A. 対策内容について、機能材料セグメントはマージンの改善など、金属セグメントはエネルギーコストの改善10億円強くらい、他には物品コスト削減など、自動車部品セグメントについては、従前より取り組んでいる原価低減などを織り込んでいる。なお、下期に回復すると見ていることもあり、現時点では緊急対策的なものは織り込んでいない。